

大和郡山市子ども・子育て会議
令和6年度 第2回会議 議事録

○開催日時

令和6年9月24日（火）午後1時30分～午後3時00分

○開催場所

大和郡山市役所交流棟2階交流ホール

○出席者 12名

乾委員（会長）、中村委員（副会長）、渡辺委員（部会長）、大木委員、吉岡委員
藪田委員、西田委員、細田委員、奥田委員、鎌仲委員、高原委員
徳田委員（敬称略 順不同）

○事務局 7名（子育て支援課、保育支援課、保健センター
ジェイエムシー株式会社）

○傍聴 1名

○次第 1. 開会

2. 議題

- （1）こども計画策定に伴うアンケート調査の結果について
- （2）大和郡山市こども計画の方向性について
- （3）その他

3. 閉会

【開 会】

事務局：ただいまより、令和6年度第2回目となります大和郡山市子ども・子育て会議を開会いたします。本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。

私は、本会議の事務局を担当しております子育て支援課の伊藤と申します。よろしく申し上げます。はじめに、本日の会議資料を確認させていただきます。

《資料》会議次第、調査結果の概要、グループワーク資料
の3点です。不足がございましたら、お申し出ください。

本日は、12名の委員の参加となり、過半数以上の方にご出席いただいておりますので、大和郡山市子ども・子育て会議条例第7条第2項に基づき、会議が成

立する旨、ご報告させていただきます。

なお、河口委員からはご欠席の旨ご連絡をいただいております。

また、前回に引き続き、次期計画の策定業務を委託いたしております、ジェイエムシー株式会社の大内も同席し、説明に加わっていただきます。

また、本会議は公開で開催します。傍聴希望の申し出がございましたら、会長より皆様にお諮りし、ご承認頂ければ傍聴人の入場後、議事を進めていただく予定であります。ご了承ください。

これからの議事につきましては、大和郡山市子ども・子育て会議条例第7条第1項の規定に基づき、会長のもとで進めさせていただきます。

乾会長、よろしくお願いいたします。

会 長：それでは、議事を進めてまいります。

なお、この会議は原則公開となっております。

今回、傍聴希望者が1名おられますので、傍聴に関する基準第2条に従い、委員の異議がなければ承認しますが、いかがでございでしょうか。

(異議なし)

ご異議がないようですので、傍聴希望者の傍聴を認めます。

(傍聴者 入場)

事務局：本会議は、傍聴人による写真や動画の撮影及び録音は禁止させていただきます。ご協力のほど、お願い申し上げます。資料は後程回収いたします。それでは会長お願いします。

会 長：それでは、開会に先立ち、一言ご挨拶を申し上げます。改めまして、本日はお集まりいただきまして、ありがとうございます。

また、前回に引き続き、渡辺先生にもお越しいただき、ありがとうございます。

前回の5月の会議におきましては、来年度以降の本市の子育て支援・若者政策全般の方向性を定める「こども計画」の策定に向けて、みなさまとともにスタートしたところです。

今回は、この夏に実施しました市民の皆さんへのアンケート調査の結果報告がありますが、本当に必要な支援や、市民が困っていることは何かということが、このアンケートを通じて具体像として見えてくると思います。本日は後半でグループに分かれての討議を予定しています。みなさんのご意見をいただき、活発な議論をお願いしたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日も前回に引き続き、こども計画策定部会として議事を進めることとしますので、渡辺部会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

部会長：こんにちは、部会長としてこの1年間お手伝いさせていただいています。これからは、子ども計画の基本理念をディスカッション、グループワークという形でご検討いただきたいと考えています。忌憚なくお考えになっていることを資料として取りまとめたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは次第に従い、一つ目の『こども計画策定に伴うアンケート調査の結果について』事務局より説明を求めます。

事務局：アンケートの配布回収方法が変更となりまして報告いたします。

P1 1 調査概要（2）調査の実施についてです。

一覧にしている大きな調査3つ、子育て、若者、子どもの生活調査のうち、子どもの生活調査について、回収率を上げるため、学校に調査協力をお願いしたのですが、小中学校の先生の負担が大きいくということ、他の調査と同じく郵送による配布、回収に変更いたしました。このためどうしても回収率が下がることになってしまったんですが、前回会議での、委員のご意見を踏まえ、私立学校の生徒宅も対象とするということといたしましたので併せてご報告いたします。以上です。

事務局：私の方からは調査結果の概要について説明いたします。

まず、P1、1. 調査概要 です。

（2）調査の実施については、先ほど説明がありましたとおり、調査集計の方法が変わったということでございます。

（3）配布数・回収数・回収率 の回収数については、400～500 で統計的にもアンケート調査が成り立っているという数字ですので安心してご確認していただきたいと思います。

続いてP2、2、ニーズ調査（就学前児童・小学生児童）の結果 です。

これは、就業前、小学校の保護者を調査した結果です。

まず、① 子育てをするにあたり、気軽に相談できる人はいますか、という質問に対して就学前児童、小学生共に90%くらいは「います」という回答で前回調査とは同じ結果でした。

続いてP3、①-1 次に相談相手がいるという方に具体的に誰に相談しているか、という質問をさせていただきました。

まず、就学前児童の保護者の結果です。気軽に相談できる相手として、一番多い

のは、「配偶者・パートナー」が 87.4%、「その他親兄弟など」が 76.4%となっています。

前回調査からの比較で「隣近所や地域の知人・友人」が 12%、「保育園、幼稚園、学校等の保護者仲間」が 10%前後減少しているのですが、「保育園・幼稚園、学校の保護者」が減ったということですが、グラフを見ていただくと、保育園、認定こども園の先生とか、幼稚園の先生、学校の先生等前回混ざった形で調査したので、完全に比較はできず、このような形になりました。

続いて P4、小学生児童の保護者の結果です。一番多いのが「配偶者・パートナー」、2番目が「その他親兄弟など」で就学前の保護者の調査とほぼ同じ結果となっています。グラフを見ていただくと、「保育園・幼稚園・学校の保護者仲間」が、11.1%の減でこちらも前回調査の選択肢の関係で完全な比較はできませんが、このような結果でございます。

P5、② 平日に定期的な教育・保育事業を利用していますかという質問です。利用状況は、「利用している」が 78.4%、前回調査同じような数字が出ています。ちなみに、子どもの年齢別で利用状況を記載しています。3歳から5歳では、94%から97%でほとんどの方が何らかの形で保育のサービスを利用されている状況でございます。

続いて P6、②-1 利用されている方に具体的にどの保育教育事業を利用されているかの質問です。一番多いのが「認定こども園」61.6%、「幼稚園」が 18.4%、「認可保育園」が 15.6%、前回の調査と比較しますと、幼稚園、認可保育園が減少、認定こども園が増加しているということでございます。このことについては、5年前の教育保育の計画において、認定こども園に移行されている計画であることから変わってきたと考えます。

P7、③ 現在利用しているしていないにかかわらず、定期的に利用したい教育保育事業はありますか、という質問でございます。一番多いのは「認定こども園」で 64.8%、2番目に「認可保育園」、3番目に「幼稚園」と続いています。これも前回調査と比較して、幼稚園、認可保育園が 10%減で認定こども園が大きく増加しているものです。

この状況を次の P8、子供の年齢別に記載したところです。どの年代も認定こども園が一番多くなっております。その内訳は、0から2歳児が、70~80%、3歳以上になると 50%台となっています。そして2番目に多い回答としまして、0~3歳が認可保育所、4、5歳では幼稚園となっております。同じく P8、④ 学童保育所の利用状況、これは小学校児童の保護者への質問です。その利用状況については、利用していないが 58.7%、利用しているが 34.8%で、これを学年別で見ると、利用しているの回答が1年生で半分 51.3%、2年生で 48.2%、3年生で 43.7%、4年生以上で 21.8%になっています。

P9、⑤ 子どもが小学生の時に放課後過ごさせたい場所はどこですか？という質問で、就学前児童でかつ5歳以上の保護者にどこで過ごさせたいか、聞いております。グラフでは左が低学年、右が高学年になります。まず、低学年では学童保育所が51.1%で最も多くなっています。高学年では自宅が45.9%で最も多くなります。前回調査と比較しますとまず低学年、自宅は13.5%、習い事が17.9%減少していて、学童保育所は増加する傾向です。高学年になりますと、自宅、友人宅、習い事が減少しまして、学童保育所が10%高くなるというように、学童保育への意向が高くなる傾向だと思われまます。

P10、⑥ 実際、小学生のお子さんに放課後どのように過ごしてまますかと尋ねています。一番多いのが習い事52%、2番目が自宅で留守番が40.9%、前回調査と比較すると自宅で留守番、習い事が減少し、学童保育が増加したという結果です。

P11、⑦ 「こども誰でも通園制度」の利用意向、令和8年度導入予定の新しい制度です。これについては、利用したいが32.3%、どちらかと言えば利用したいが、31.4%、2つ合わせると63%が利用したいという回答です。

P12、⑦-1です。利用したい人にどのくらいの頻度かという質問です。一番多いのが週1回程度で46.9%という結果でした。

P13、⑧ 大和郡山市に期待する子育て支援策は何ですか、という質問です。一番多い回答が「親子が安心して集まれる屋内の遊び場整備する」が74.5%、次いで親子が安心して集まれる公園等屋外施設を整備するが64.4%で続いています。前回調査と比較しますと一番多かった、親子が安心して集まれる屋内の遊び場整備するが、25.4%増加して結果となっています。

P14は、小学生に同様の質問をしたところでは、こちらは上位2件、親子が安心して集まれる屋内の遊び場整備する、親子が安心して集まれる公園等屋外施設を整備するが上位2件を占めています。

P15、⑨ これからもお子さんに大和郡山市で育てほしいと思うか？という質問です。こちら、就学前、小学生ともに「どちらかと言えばそう思う」が最も多くなっており、全体の6割から7割の方が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が多くなっている。

続いてP16、3、子どもの生活に関する調査の結果 でございます。

こちら全国的には貧困調査と言われる部分の結果です。今回最初にこの調査結果から貧困率を算出させてもらっています。上のグラフの一番左が貧困層と言われるパーセントになります。大和郡山市で11.8%、約1割くらいです。国の調査では12.9%ですので、ほぼ同じくらいの貧困率であるという結果となっています。こちら貧困層を用いて、多く分析を加えさせてもらっています。

まず、① 1年間にお金が足りなくて食料が買えなかった経験です。これについて

て、経験ありが、大和郡山市で 17.3%、国が 11.3%で 6%ほど大和郡山市が多いという結果になっています。

次 P17 上、② 衣服が買えなかった経験です。これについては 21.2%が経験あり、国が 16.3%、大体 4.9%大和郡山市が多くなっている状況です。

そしてその下、③ お子さんは将来的に見てどこまで進学すると思うか?という質問でございます。全体では 55.4%の人が「中学、高校、大学」次いで「わからない」が続いています。次に世帯収入別にみると、どの層も「中学、高校、大学」が多くなっておりますが、貧困層につきましては 28.8%と他の層に比べてだいぶ低くなっています。また、表の左から 2 番目、「中学、高校」と「中学、高校、専門学校」というところが、貧困層では 10%多いという結果でございました。

P18 下、⑤ 将来どの学校に進学したいか?の子どもの結果の方です。これについては、保護者の結果と同じく「中学、高校、大学」が最も多く 29.6%で一番多くなって、次いで「わからない」が多くなっています。これを世帯収入別にみてまいりますと、「中学、高校、大学」が貧困層では 10%台、準貧困層、その他層に比べて、この割合が低いという結果になっています。反対に表の左から 2 番目の「中学、高校」というところが、貧困層は 26.5%と他の層に比べて多いという結果でした。

そして P19 の上、⑤-1 でまだ進学が「わからない」以外を選んだ方で、将来どの学校に進学したいと思うかの理由を尋ねています。一番多いのは希望する学校や職業があるから、が最も多くなっておりますが、貧困層については 34.4%となっており、他の層より低くなっています。

P19 下、⑥からは食事の状況です。まず朝食の摂取状況です。毎日食べるが全体の 84.1%、それを世帯収入別に見ますと、貧困層が 69.4%でほかの層より低くなっています。

P20、b) 夕食については、毎日食べるが 96.6%で、これは世帯収入での差はさほどありませんでした。夏休み、冬休み期間中の昼食について、毎日食べるが、全体 89.5%、貧困層 83.7%でそれほど差はないのかな、と思います。

少し飛んで、P21 下、⑨ 子ども食堂の利用状況ですが「利用したことはないし、今後も利用したいかどうかわからない」が最も多くて 27.8%、「利用したことはないし、今後も利用したいと思わない」が 24.2%が続いています。それを世帯収入別ごとにみますと、利用したことがあるが、貧困層では 32.7%、他の層より 10%以上高い結果になっています。ここまでが生活実態調査です。

そして、最後の調査で、

P22、4. 若者調査の結果 でございます。

若者調査 39 歳までの対象となったアンケートです。

まず、年齢性別について、半数以上が 30 歳以上の方で 6 割が女性です。

ページ下、① 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験はありますか？という質問に半数以上 54.6%がなかったと答えています。「過去にあった」が 30.6%、「現在もそうである」が 7.5%となっています。国の調査は過去にあったと現在そうであるが一緒になっていて 45.1%、大和郡山市では合計すると 38.1%「あった」という回答で大和郡山市の方が若干低いという結果です。

P23、①-1 「過去にあった」「現在もそうである」と答えた方にその原因を聞きました。グラフの上二つ、「周りの人との人との付き合いがうまくいかなかったこと」と「病気になったこと」が多くなっています。

P24、②現在幸せだと思いますか、質問で一番多いのが「どちらかと言えばそう思う」が 45.9%、「そう思う」が 42.3%、で合わせますと 88.2%で国の結果とそう差はございません。

そして下、③ 就労状況でございます。正規の社員、職員、従業員が 61.0%、こちらを「幸せと思う」で集計すると、同様に正規の社員、職員、従業員が一番多くなっています。ただ、表の右の方にある、無職、仕事を探している、の回答で「幸せだと思わない」が 10%、という結果で「幸せだと思わない」が多くなっている結果になっています。

④は、あなたにとっての居場所について尋ねております。

P27をひらき、下の方をご覧ください。一覧で表現させていただいています。自分の部屋、家庭が居場所になっている結果になっています。そして、学校、職場、地域、インターネットが 50%台または 4 割程度となっていて、全国と比較しますと（４）職場というのが、大和郡山市では 51.5%で、全国調査では 41%なので 10%多く、職場が居場所になっているという状況です。

P28、この結果を幸福感別に集計したところ「そう思う」というところですが（６）のインターネット空間を除き、全ての項目で幸せと思う方が思わない方を上回っています。そして幸せだと思わない方につきまして、学校、職場、地域において「そう思わない」という回答が、そう思わない方より多いという結果でした。

P29、⑤ 結婚、出産、子育てしやすい環境にはどのようなサポートが必要ですか？という質問です。一番多いのが、結婚、出産、育児に対する資金貸与や援助支援で 43.4%、次いで子育てがしやすい税制や社会保障が 41.2%、この 2 つが 40%台になっています。

そして、最後でございます。

P30、⑥ 大和郡山市が取り組む若者施策で望むもの、で一番多いのが、安心して出産子育てのできる環境づくりを進めるが 63.9%、次いで 30%台ですが経済的な困難を抱えている家庭を支援する、学校教育を充実するという結果でした。私からの報告は以上でございます。

部会長：ありがとうございました。ただいまアンケート調査を行いました結果報告でしたが、これまでのところでご質問はございますでしょうか。

部会長：はい、どうぞ

委員：ありがとうございました。この概要ということで、ちゃんとした調査結果というのはあるのでしょうか。概要というのは簡単にまとめた結果と思うんですが、例えば、P2 子育てする上で気軽に相談できる人の有無のことで就学前児童と小学生児童でそれぞれお伺いしているんですが、いるいないで前の調査と変わっていないとおっしゃってるんですが、今回の調査で就学前児童で3.3%が「いない」とおっしゃってます。人数でいえば、15人なんです。小学生児童は7.7%、人数に直すと38人、合計952名に対して5.6%ですか、53人の人が「いない」と言っている。こっちの、家に送られてきたので見たのですが、ほぼ最初にいただいた参考資料と変わりはないということなのですが、「いない」人に対して、「非常に不安や負担を感じる」「何となく不安や負担を感じる」「あまり不安や負担を感じない」「全く不安や負担を感じない」「何とも言えない」というアンケート調査もされているが、そのことの内容については一切触れていないがどうなってるのかな、というのがまず1つ。

それと、アンケート全体に言えることなんですけど、選択肢の並び方がちょっと、1番2番3番4番、順番になってるんですが見にくいです。票数の多い順番から上にまとめていただければ、と、対比とかあるのであれば、仕方ないんですが。そういう風な内容についても考えてください。

あとP3、就学前児童の3行目で「隣近所の人、地域の知人、友人」というのは、同列の考え方でいいのかな、と思いました。また、アンケートの詳細の振り分けで変えたらいいのかなと思いました。

下の方に0%とか、0.2とか0.5とか書いてる分で、1%以下を書くのは意味があるかな？と、これぐらいの方が利用してるという意味で書いてると思うのですが、これも検討していただきたいです。

P5、です。平日の幼稚園や保育園などの定期的な教育や保育事業の利用ということで、就学前児童が「利用している」「利用していない」で答えがあるんですけど、「利用したいができない」というような質問は入れてみたらいいと思います。なぜかというP8に記載されてる④学童保育所の利用ということでこれが「利用している」「していない」に「利用したいが利用できていない」を入れてるんで、と思いました。

P15、就学前児童が、これからもお子さんに大和郡山市で育ててほしいと思うか？ということで、前回調査と比較すると、どちらもほぼ同様の結果となっている

ます、と記載されていますが、今回調査で就学前児童 66.2%が「そう思う」「どちらかというと思う」前回調査が 71%だったのが 4.8%減少となっていて、これが同様の内容とは言えない。と思います。

あと、この項目に「わからない」という回答を入れていて、15%前後表と取ってしまっているのも、別に「わからない」はいらないかな、これだけ「そう思う」「そう思わない」の2択だけでなく、4 択用意されているので「わからない」は要らないと思いました。

あと、細かいですけど P21、下のグラフの題名ですが、世帯の状況別 進学希望が、間違ってると思います。以上です。

部会長：ありがとうございました。いくつか、ご質問ございましたが。

事務局：ご意見ありがとうございます。報告書なんですけど、質問が全部入ったものについては、現在作成中でして、パーセント自体は全部出してるんですけど、ボリュームが多いとして報告させていただいておりますので、今日はご呈示していないところについては、改めてご呈示の方をさせていただきます。

隣近所、知人、友人、は同列か、という質問につきましては、今回、1 個の選択肢として聞いておりますので、次回分けた方がいい、分けて対応になろうかと思えます。今期に関しては分けて集計できない状況でございます。

少ない回答については、表記しなくてもよいのではないかと、ということにつきまして、少なくとも載せるということも経過としてありますので、計画書で表記する際は、中心になる 3 つだけとか 5 項目とか編集の方向とさせていただいて、報告についてはさせていただく対応になりますので、そのようにさせていただければと思います。

選択肢の「利用したい」「利用したくない」というところに、「利用したいができない」というところにつきまして、国の調査項目が「利用している」「利用していない」となっており、そのまま引用させていただいているところで、なっております、ただご指摘のとおり「利用していない」は、「利用できない」と分けることは技術的に可能と思われますので、今期は対応は難しいのですが、議事録に残させていただき、5 年後はぜひ対応していただきたい、次回できるかどうかかわからないので、このような回答になってしまいます。

事務局：(回答の並びが設問によって違っている件につき) 今いただきましたご意見を踏まえて見やすくなるように編集させていただいて公表をさせていただきます。前回調査と同じ設問設定させていただいておりますので、そのまま踏襲しておりますが、「わからない」という正直なご意見をいただいたのかなと思いますが、次回に検討していきたい。

事務局：最後の P21、は誤植です。申し訳ございません。

部会長：他にアンケートについてございますか。

委員：P1、1000 件に調査された、1000 で市民の状況がわかるということでされたのでしょうか？また、ところどころ出てきますけど、前は 900 を超える回答 800 を超える回答、今回は 400 で半減している。まず前回アンケート調査何件されたのでしょうか。

事務局：前は若者、生活調査がなかったもので、前半の調査に対するものが、それぞれ 1500 件です

委員：1500 件のうちの 800、900 という回答、を得られたということですね。回答が 50%に達しないというのは、市はしっかりとらえないといかん。なぜ回答してもらえない、前回言ったのに何もしてもらってない、という風に市民が思ったと、私ならばアンケートしませんよ。この数字はしっかりとらえて回答していただいた方に対して、こういう風に市は取り組んでいきたいということをフォローしていかなあかん。大事なポイントや。私も今一番に思ったのは、郡山で子供を育てたいと思うか、ということ、P15 の回答です。あまり数字的には変わらないよ、と言ってるけれども、郡山市で子供を育てたい、とは思わない。どちらかというと思わない、の回答が 15%近くあるということは、400 の 15%ということは、50 超えますよ。郡山市で子供を育てたくないと思っている人が、そんなにいてるという現実、これは深くとらえて行かないといけない。私はこの数字というのは今回のアンケート調査で一番大事にすべきポイント、どうしたら、郡山で子供を育てたいと思うのか、それをしっかり検討して、我々は、そのために集まってると思ってます。

いろいろ、アンケート調査されてますけど。屋外のいろいろな遊び場所。屋内の場所がほしいという回答が出てきてますよね。私先週か先々週か新聞見てましたら、近鉄の郡山新しくなるんですね。その駅周辺に子育て支援の建物が立つ。と書いてました。すごいこと、郡山市するやんか、これも一つの広報ですよ。こういう郡山にいたらこんな素晴らしいことがあるよ。という広報をもっとしていかなあかんし、これは毎回言うてることだと思うし、50 から 70 人の人たちが、「どちらかと言えばそう思う」という回答に来るように、一生懸命してることはわかるが、これだけのものをまとめて、皆さんに出すのは大変な作業と思う。それをして結果がいい方に出るように、これから我々も協力していきたいと思うし、きついこと言いますがよろしく願いたい。

事務局：委員ありがとうございます。今おっしゃられていること、まさに、アンケート回答回収率の低下にせよ。わずか数ポイントとはいえ、そう思わない、どちらかと言えばそう思わない。郡山で子育てしたくない、というポイントが上がっていることは重く受け止めたい、と思っております。このような事実は、やはりアンケートで我々思い知らされるというか、改めて理解したうえで気を引き締めていかなければならない。と真摯に受け止めておりますので、これからも会議が続きますが、皆様のご協力賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

委員：うちにもアンケートが届き、書いて返信させてもらったが。定型の項目というか、選ぶ、以外に、最後に自由記載のところがあったと思うが、さっき説明の中で報告すべきところだけピックアップ、というお話だったが、自由記載というのが一番各々が自由に書けることなのでいろんな気持ちが出てくると思う。もちろん、常識はずれなところも出てくることもあると思うが、一方、心の叫びではないですが、そのようなことを記載されていることもあるのでは。と思う。今もしお手元に自由記載の中で1つでも2つでもあるなら、どんな意見があったか教えてほしいですし、私が書いたのはこのアンケートの中で屋内屋外の遊ぶところですが、私は無茶苦茶ほしいところなんです。このアンケート結果見たら、前回調査でも50%超えていて、市民は明らかにほしい。と言ってるが。何%以上いったら、それを確実につくっていただけるのか。アンケート取る以上はそのあたり示していただけたら嬉しいと思う。すみませんがよろしくお願いいたします。

事務局：自由記載の欄を大きく書かせていただいていたのに、申し訳ないですが、今この場にはその資料がございませんので、また何らかの形でピックアップしながら、精査して整理して、見やすい形でお示しできたらと思っています。また何%以上かということですが、なかなか難しいところではあります。計画を作ったことすべてが、なるかならないかということは、その時の状況によりますが、今回この後グループワークでしていただきますけど、アンケートの結果から今日ご議論いただいて、今回政策につなげていけたらと思っておりますので、今回の結果については重く受け止めたいが、何%だったらという具体的な数字は申し上げられないですが、そういった形で進めていけたらと思っていますので。よろしくご議論お願いします。

委員：アンケートの結果を踏まえても全部できない、それは当然なんですけど、前回の調査から今回まで期間があって、前回の結果を踏まえて、この5年間で、こういうことが変わったんだというところがあればぜひ教えていただきたい。

事務局：今のご質問を想定していなかったのですが、次回までに考えさせていただきます。

部会長：最後の質問は大事なことだと思う、今までどのようなようになったのかは、ある程度資料を出していただいてもいいと思うので、よろしくお願いします。それでは、1つ目の方はここまでさせていただき、2つ目の方のグループワークに進めさせていただきます。

こども計画の方向性についてということで、いろいろご指摘がございましたが、調整結果を踏まえつつ、大和郡山市に子育て、こども施策のあるべき姿を抽象的な問いかけかもしれません。皆さんと議論させていただきたいと思います。これから、2班に分かれて、議論したいと思います。よろしくお願いします。進め方につきましては事務局より説明願います。

事務局：本日、委員の皆さんにご議論いただくのは、新しい計画に定める基本理念、それぞれお考えいただいているキーワードを出し合ってもらって、大和郡山市の政策、こども子育て支援の方向性を決めてまいりたいと思っております。結果については最後に発表させていただきたいと考えています。午後3時までで、発表まで進めてまいります。

それでは、それぞれのグループで進行してまいります。よろしくお願いします。

(各班議論)

西側の班代表委員：それでは発表させていただきます。

まず、子どもに持ってほしい気持ちであったり、心であったり、力を合わせていく、自分を大切にすることで、人への思いやりを持つ、自分で考えられる、自立した子になってほしい、という意見が出ています。

その実現のためにはどういうことが必要なのか、経験ですね、コロナ以来、子どもが力を合わせるような場、経験する場が減っているのも、体験を発信したり、体験してもらうことで心が育まれるのではないだろうかということで、その取り組みが大事ではないかということです。また、貧困層の問題がありますので、その支援、自分自身だけではどうにもならないこと、無料塾への支援、企業の協力、貧困家庭のこどもへの支援をどのようにしていくか、支援の部分をどのように強めていくか、並行して進めて行くことが大事ということでした。それと話題は少し離れますが、地域のつながり、ふるさとということ郡山においてどうするか、過去であれば、子供会とかシニアリーダーの団体がございまして、この中で知り合った中で、つながりを感じて、結果として郡山を好きになったり、郷土

愛を育まれたりしたんですけど、いまはそれが弱まっているのですが、郡山を好きになり、郡山に住みたいと思ってもらえる地域のつながりをどうやったら昔の形に、普通というわけにはいかないですが再現できるかということです、以上です。

東側の班代表委員：子どものことを考えると親のことを考えてしまう。働き方を考える、こどもの保育士さん、朝早くから夕方遅くまで、市内であったりとか、学校の先生の負担軽減ということで、今2つの地域校でやってるんですが、今一部で土日の運動部だけなんですけど、いずれ運動部全部、土日だけでなく平日もなってきます。今一番市が推しているというのが、先生の負担軽減もそうなんですけど、やはり子供たちに指導者が熱い思いをもって、正しい技術を伝えてほしい、というのがあると思います。ただ保護者としては今後おそらく地域移行化するにあたっては、お金を払っていくことになるんやと、いう不安はあります、。

あと、私の個人的意見ですが、天理市さんの学校3部制ってことをしてまして、3部制ってなんやねん、という、学校教育、今子供らが対話している状態、そのあと学童の施設を入れる、整備をここまでおこなわれてます。3部として公民館として使ってみたらどうだと、天理市は9つの小学校、9つの公民館があるそうで、コンクリートの耐久年数もあって、ここ10年で改修もしくは建て替えを進めなあかん、18施設も立て替えといたした時、やっぱり地域の宝はこどもや、学校に行ってる子供がいるから学校や、学校を残すことになっただけです。通っている子供の数も減って、学校に使っていない教室もある。そこを公民館利用しよう。そうすると学校だけを残すということになるんですけど、責任的にはまあ使っていない教室、他の教室あるんですけど、今でしたらICTもありますよね、いづれどこで誰が入ったということも管理できます。そういったところに天理市はお金を使われているので、良い施策かなと思いました。地域で学校に来ようよ、となっている所は、例えば、こないだ地震がありました。土砂災害ありました、となったときに、みんなに学校が来れるところになります、そうすると被災者として体育館に行きますと、そういうコミュニティがあるのと、全くないのと、コミュニティがある所の方がしっかりとした運営ができるようです。地域としてまとまっている。避難して体育館に集まって暑いんで、郡山も学校の体育館に冷房入れてもらいましょう、ということになるんですけども、冷房の設置でなく、置き型でもいいのでも検討して欲しいなあと、PTAの個人的な考え方でした。ありがとうございました。

委員：今言われたことで、郡山中学校で校長先生が言われてたことを今言われてました。大災害が起こったときに家がつぶれたときにどこに避難するんかという、私は城ホールに行きたいと思っている。なんでかという、校長は空調のないとこ

にこの夏行きたくないですね。冬場寒いところもです。

部会長：ありがとうございました。

3つめ『その他』であります。今後のスケジュールについて報告がありますのでお願いします。

事務局：次回第3回会議は11月19日10時からでございますので、よろしくご出席をお願いします。

部会長：その他、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。会議終了後に気づかれた点等がございましたら、事務局までお知らせいただければ結構ですので、よろしくごお願い致します。それでは、これにて、本日の策定部会の会議は終了とさせていただきます。

お疲れさまでした。会長にお返しします。

会長：ありがとうございました。

計画の策定に向けて、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

それでは、すべての議事が終わりましたので、これをもちまして、令和6年度第2回大和郡山市子ども・子育て会議を終了させていただきます。

慎重にご審議いただきまして、ありがとうございました。